

研修テーマ 「音読の声を大きくするには、またクラス全体に広げるにはどうすればよいか」

所属 土佐山田町立鏡野中学校

氏名 山下 明博

R G J H 8

1、研究の背景

鏡野中は土佐山田町内にあり、クラス数は各学年 4 の 12 クラスで、高知市以東では大規模校である。部活動や人権教育に力を入れており、あいさつができるのは生徒の特徴としてよく言われる。

2 年 4 組は男子 16 名、女子 16 名の計 32 名。全体的に真面目で、授業中も静かである。小テストの単語テストにはがんばる生徒が増えたが、家庭学習が不十分なのが課題である。

2、リサーチ・クエスチョン

「音読の声を大きくするには、またクラス全体に広げるにはどうすればよいか」

3、予備調査

①授業観察の結果

- ・ 音読練習の時、声の出ている生徒もいるが出ていない生徒もいる。
- ・ 声を出すよう教師が喚起すると、声は広がるが一時的である場合が多い。

②生徒の英語学習意識

- ・ 英語が好きでがんばっている、結果も良いという生徒がいる反面、興味を失い、ほとんど意欲のない生徒も少数見られる。

③英語力を示すデータ

- ・ 定期テスト（中間・期末）のクラス平均は 55 点前後。
- ・ C R T 全国比（全国 100）

聞くこと 94

話すこと 79

読むこと 92

書くこと 97

4、仮説の設定

仮説 1 音読テストを取り入れることによって、読みに対する意欲づけができるのではないかと。

仮説 2 班競争を取り入れることによって、音読意欲が高まるのではないかと。

仮説 3 「5 分間音読」を取り入れることによって、より効果が期待できるのではないかと。

（実践の方法）

仮説 1 ・教科書 2 ページを指定し、そのうち 1 ページを選択して読む。

- ・ 1 週間の練習期間を設定。
- ・ テストは個人面談形式で行う。
- ・ 採点の観点は「大きな声で読む」と「正確に読む」の 2 点。

仮説 2 ・ 班競争の目標を明確にするために次の 2 点を提示。

- (1) 大きな声で読む。
- (2) つまらないように（スムーズに）読む。

・ 班競争の進め方

- (1) 班で練習（3～5 分）→ (2)発表 → (3)評価（1 点・2 点・3 点で相互評価）

仮説 3 ・ 教科リーダーが前に出て、読み始めるページを知らせ、一斉に読む。

・ 5 分間、読み進められるだけ読む。

5、計画の実践

仮説 1 5 月実施

仮説 2 6 月実施

仮説 3 9 月下旬～10 月中旬実施

} 実施内容は 4 に同じ

6、結果の検証

仮説 1 ・ ほとんどの生徒が真剣に取り組めた。結果も良かったが一部の生徒は練習不足。個人面談形式で実施したためか、非常に緊張している生徒も見られた。

テスト結果	A	B	C	
声の大きさ	23	2	5	A...大変良い B...良い
正確さ	20	5	5	C...努力を要する

仮説 2 ・ 班によって練習しない生徒が一部見られたが、だいたい班が熱心に練習に取り組めた。遅れている生徒への援助もあちこちで見られて良かった。

- ・ 発表が積極的にできた。
- ・ 挙手の形で相互評価をしたが、教師の評価とほぼ合致し、生徒たちは公正な評価ができていたと思う。

仮説 3 ・ 軌道に乗るまでは教師主導でやらねばならなかったが、その後は教科リーダー主導で実施できた。

- ・ せいぜい 5 分なのでがんばりやすいし、みんなが一斉に読むことによって読む雰囲気教室に生まれた。
- ・ 班競争とちがって、他との関わりがないため、手をぬいたり、さぼったりしやすかった。また、まちがって読んでいてもチェックできないため、そのままになっていることが多かった。

7、成果と今後の課題

「音読テスト」や「班競争」、「5 分間音読」を仕組むことによって、少なくとも音読に興味をもたすことができたし、生徒によっては音読に取り組む中で英語そのものに興味を広げがんばり始めた者もいるし、自信を深めて英語がよりおもしろくなってきた生徒も出ている。

今後は生徒自身がアンケートの中で挙げている Target・英文和訳・テストや家庭学習といった次への課題に向かって、今回の経験を生かしつつ取り組んでいきたいと思っている。